準備研究	資企 R三〇五 號
トルオールノ増産ニ關スル研究	昭和五年十一月二十六日

資源局企畫部

參照文書　暫定期間計畫指示事項其ノ一（資企G二〇〇號）

備考　暫定期間計畫資源番號「二三〇九三二」
昭和四年度準備作業資源番號「三四八」

希望　トルオールハ國内生産額少ク且輸入モ甚ダ困難ナルニ係ラズ需要額ハ多大ニ上リ、補塡計畫設定極メテ困難ナル見込ナルヲ以テ、茲ニ生産増加ニ關シ研究ノ一端ヲ示シ廣ク各廳ノ關係者ノ高覽ニ供シ御研究ヲ仰ギ度

一　平時生産狀況

トルオールハ通常石炭瓦斯及骸炭ノ副産物トシテ回收スルモ元來トルオールノ回收率ハ極メテ低ク瓦斯ノ洗滌其ノ他ニ依リ極力回收ニ努ム

0231

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ルモ尚石炭處理量ニ對シ多クモ僅ニ〇、八%輕油ニ對シ一五%以下ニ過ギザルベク從ツテ小瓦斯又ハ骸炭工場ニ於テハカカル少量ノトルヴォールハ回收スル爲特ニ設備ノ新設ヲ行フモ經濟上却ツテ不利ナル爲大部分ハトルヴォールノ回收ヲ行ハズ

現ニ國內石炭瓦斯及骸炭工場ニ於テトルヴォールノ回收ヲ實施シ居ルモノハ僅ニ左記數工場ニ過ギズ

工場名	生産額（瓲）昭和元年	同二年	同三年	設備年産能力（瓲）	所在地
八幡製鐵所	一六〇	一二六〇	二〇〇		福岡縣八幡市
東京瓦斯株式會社 大島精製所	九七	六八	一〇〇		東京府南葛飾郡大島町
株式會社日本製鋼所 輪西工場	二四九〇	一九〇			北海道室蘭市
東邦瓦斯株式會社 名古屋工場	一七	一二			名古屋市中區御器所町
日本染料製造株式會社 大阪工場	三三	一			大阪市此花區春日出町

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三井鑛山株式會社 三池染料工業所				三五〇	福岡縣大牟田市
合計	四八〇	四六〇	四八〇	四八〇	

備考　本調査ハ軍需調査部ニ特定調査ニ付ス

昭和三年度三池染料工業所ノ生産ハモートリン（ベンゾール、トルオール等ノ混和）ノ生産四百四十四瓲中ニ含マレトルオール單獨トシテノ生産記入ナキヲ以テモートリンヨリ約四割ノトルオールガ得ラルモノト推定シ此ノ量ヲ假ニ昭和三年度ノトルオールノ生産トシテ之ニ括弧ヲ付シ從ツテ合計生産額ニモ括弧ヲ付シテ右表ニ掲ゲタリ

日本染料製造株式會社ノ生産ハ廢酸中ヨリノ回收量ニシテ純生産ニアラズ

即チトルオールノ平時生産ハ年額五百瓲内外ニシテ多クモ八百瓲ヲ出デザルベク回收設備能力モ日本製鋼所其ノ他ヲ合スルモ尚年額九百瓲ヲ出デザルベシ

0233

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二　戦時増産ノ方法

前述ノ如クトルオールハ理想的爆薬製造原料ナルヲ以テ戦時ニ於テハ之ガ需要ノ激増ト共ニ極力増産ヲ圖ラザルベカラズ。之ガ爲研究ヲ要スベキ方法左ノ如シ

(一)　瓦斯及該炭製造ノ副産物トシテ極力トルオールヲ回收スル方法

石炭ヲ其ノ儘使用スル代リニ成ルベク石炭瓦斯及該炭ノ使用ヲ勸ムルト共ニ石炭瓦斯及該炭ノ製造ヲ奬勵シ之等工場ニ對シ其ノ成品ヲ相當値段ニテ買上グルハ勿論要スレバ補助金又ハ奬勵金ノ交付或ハ其ノ他適當ナル方法ヲ施シ以テ石炭乾餾爐及石炭乾餾方法ノ改善並ニトルオールヲ回收設備ノ増設或ハ新設等ヲ行ハシメ普通實施シ居ル回收方法以外ニ伊、佛、獨等ノ例ニ倣ヒ法令ヲ以テ石炭瓦斯中ニ含有スルトルオールノ量及石炭瓦斯ノ熱量ヲ制限シ以テ強制的ニトルオールノ回收ヲ勵行シ極力之ガ増産ニ努ム

今試ミニ伊太利ノ法令（石炭瓦斯年産二百万立方米以上ノ工場ニ對シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一立方米ニ付鈔クモ十五瓦ノ輕油ヲ回收スベキ義務ヲ課セリ）ヲ本邦現行（昭和三年末現在）石炭瓦斯製造工場ニ適用スル時ハ之ニヨルトルヴォールノ增產豫想高概ネ左ノ如シ

製造工場名	瓦斯製造量（水性ヲ含マズ）（立方米）	輕油回收高（瓩）	トルオール回收豫想高（瓩）	備考
東京瓦斯株式會社　芝工場	二七、三九〇、八五五	四一一	六二	トルヴォールハ輕油ニ對シ二五％回收シ得ルモノトシテ計算セリ
〃　千住工場	六三、一六三、八二三	九四七	一四二	〃
〃　深川工場	六一、九〇三、〇二一	九二九	一三九	〃
〃　大森工場	八六、四七八、八八四	一、二九七	一九五	〃
〃　砂町工場	一四、三九九、九〇〇	二一六	三二	〃
京都瓦斯株式會社　坊城工場	三〇、一四六、三七六	四五二	六八	〃
大阪瓦斯株式會社　岩崎工場	六六、二七九、一四六	九九四	一四九	〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大阪瓦斯株式會社川岸工場	一七、〇四一、六四四	二五六	三八	〃
錦瓦斯株式會社工場	二、九九七、二八四	四五	七	〃
浪波瓦斯株式會社工場	三、九七二、五八四	六〇	九	〃
横濱瓦斯局工場	一四、二三九、四七七	二四	三三	〃
關東瓦斯株式會社横須賀工場	二、三三四、一〇九	三三	五	〃
神戸瓦斯株式會社工場	四二、三三六、三七五	六三五	九五	〃
東邦瓦斯株式會社長崎工場	三、二二二、二三一	四七	七	〃
〃 佐世保工場	二、四二四、六九七	三六	五	〃
〃 名古屋工場	三五、〇〇二、四一九	五二五	七九	〃
諏訪瓦斯株式會社工場	二三、五三二、五〇〇	一八八	二八	〃
金澤市電氣局瓦斯工場	二、四八八、〇一六	三七	六	〃
岡山瓦斯株式會社工場	四、九五六、四九四	七四	一二	〃
廣島瓦斯電氣株式會社廣島工場	五、八六七、二〇〇	八八	一三	〃
〃 阿賀町工場	二二、二二三、五二四	一八二	二七	〃
和歌山瓦斯株式會社工場	二、〇二四、四〇八	三〇	五	〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東邦瓦斯株式會社福岡工場	四、一八九、九三一	六三	九	〃
〃　熊本工場	二、〇三一、五六九	三〇	五	〃
北海道瓦斯株式會社小樽工場	二、〇三五、九四七	三〇	五	〃
京城電氣株式會社瓦斯製造工場	四、六六三、七六七	七〇	一〇	〃
南滿洲瓦斯株式會社大連瓦斯製造工場	九、三三一、三四〇	一三八	二	〃
合計			一、二〇四	

即チ伊國ノ法令ヲ本邦石炭瓦斯製造工場（但シ昭和三年末現在ノモノ）ニ適用シタル場合ノトルヰール回收豫想高ハ大約一千二百〇四瓲ナリ而シテトルヰールハ右ノ外骸炭製造工場ニ於テモ回收シ得ベク而モ骸炭工業ニアリテハ大体石炭瓲當リ六〇ー六五％ノ骸炭及三百立方米ノ石炭瓦斯即チ骸炭瓲當リ約五百立方米ノ石炭瓦斯ヲ生ズ

從ツテ年産五千瓲ノ骸炭製造工場ハ年産二百五十万立方米ノ石炭瓦斯製造工場ニ相當スルヲ以テ本邦骸炭製造工場（但シ昭和三年末現在ノ

0237

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

モノ）中骸炭年產五千瓲以上ヲ製造スル工場ニ對シ右石炭瓦斯製造工場ニ對スルト同樣ノ條件ノ下ニトルオールヲ回收セシメ而モトルオールノ回收率ハ石炭瓦斯ノ場合ト同樣（實際ハ多少異ルベキモ）ト見做セバ之ニヨルトルオールノ增產推定高概ネ左ノ如シ

府縣名	製造工場名	骸炭製造高（瓲）	石炭瓦斯發生量（立方米）	輕油回收高（瓲）	トルオール回收豫想高（瓲）	備考
東京	鶴戸コークス合名會社大島工場	六、〇九六	三、〇四八、〇〇〇	四六	七	石炭瓦斯發生量ハ骸炭製造量ヨリ推定シ且輕油回收高及トルオール回收豫想高ハ石炭瓦斯工場ノ場合ト同率トシテ產出セリ
大阪	株式會社宗像商會コークス製造工場	九、二五八	四、六二九、〇〇〇	六九	一〇	〃
〃	合名會社芋谷コークス製造工場	五、〇八〇	二、五四〇、〇〇〇	三八	六	〃
神奈川	神奈川コークス株式會社工場	八四、八八三	四二、四四一、五〇〇	六三七	九六	〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

岩手	釜石鑛山株式會社釜石鑛業所		一〇、七〇一、八二七	一六二	二四	〃	調査票ニ既往一ヶ年間ニ使用シタル石炭瓦斯量トアルヲ其ノマヽ採レ丈ノ石炭瓦斯ヲ同年間ニ製造シタルモノト見做シテ記セリ
愛知	合名會社鈴木石炭商店コークス製造所	九、五七五	四、七八七、五〇〇	七二	一二	〃	石炭瓦斯發生量ハ骸炭製造量ヨリ推定シ且輕油回收高及トルオール回收豫想高ハ石炭瓦斯工場ノ場合ト同率トシテ算出セリ
廣島	廣島瓦斯電軌株式會社阿賀骸炭製造所		六、八五三、〇〇〇	一〇三	一五	〃	
福岡	八幡製鐵所	八九七、五九六	四四八、七九八、〇〇〇	六、七三二	一、〇〇九	〃	
〃	三井鑛山株式會社三池染料鑛業所	一四、五三三	七二、二六六、五〇〇	一、〇八四	一六三	〃	
〃	三菱鑛業株式會社牧山骸炭製造所	四九、二九〇	二四、六四五、〇〇〇	三七〇	五六	〃	
北海道	株式會社日本製鋼所輪西工場	一二九、三七八	六四、六八九、〇〇〇	九七〇	一四六	〃	骸炭製造量ハコークス製造ニ使用シタル石炭量ヨリ推定

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北海道	大夕張炭坑骸炭製造場	七、二二五	三、六〇七、五〇〇	五〇〇	八
朝鮮	三菱製鐵株式會社兼二浦製鐵所	一五、二三七	七五、六二五、五〇〇	一、一四四	一七〇
臺灣	藤記骸炭製造工場	六、四八〇	三、二四〇、〇〇〇	四八	七
關東州	南滿洲鐵道株式會社鞍山製鐵所コークス工場	二五八、四二一（硬炭ヲ含ム）	一二九、二一〇、五〇〇	一、九三八	二九〇
合計					一、〇一八

石炭瓦斯發生量ハ骸炭製造量ヨリ推定シ且輕油回收高及トルオール回收豫想高ハ石炭瓦斯工場ノ場合ト同率トシテ計算セリ

〃

〃

〃

即チ伊國ノ法令ヲ石炭瓦斯製造工場ニ對スルト同樣ニ本邦骸炭製造工場（但シ昭和三年末現在ノモノニシテ大体石炭瓦斯年産二百五十万立方米ノ工場ニ匹敵スルモノニ付）ニ適用シ而モトルオールガ石炭瓦斯製造工場ノ場合ト同率ニ回收シ得ルモノト見做シタル場合ノトルオール回收推定高ハ約

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二千噸ヅリ從ツテ昭和三年末現在ノ全國石炭瓦斯及骸炭製造工場中前者ニアリテハ石炭瓦斯年産二百万立方米以上後者ニアリテハ骸炭年産五千噸以上ノ全工場ヲシテ極力トルオールヲ回收セシメタル場合ノ回收豫想高ハ總計約三千二百噸ニシテ此ノ數量ハ恐ラク本邦石炭瓦斯及骸炭工業（恒シ昭和三年末現在ノモノヲ基準トシテ）ニ於テ回收シ得ベキ最大量ナラン

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp